



ドイツからやってきた国際交流員(CIR)の
アネマリー・グンツェルさんが、ドイツの文
化や田川での生活などを紹介します。

●アネマリーさんのブログ公開中!
<https://tagawacir.wordpress.com/>

スマホ、携帯電話は
こちらから





ドイツの春を祝うMaibaum

毎年5月1日から6月1日にかけて、
ドイツの町の広場では不思議な木を見
かけるようになります。常緑樹の葉や紙
のガーランド、それぞれの町を象徴する
店や職業を示すイラスト、カラフルな飾
りで彩られたその木は、ドイツ語で
Maibaum(Mai= 5月、Baum= 木)と
言います。マイバウムは、南ドイツや西
部のラインラント地方、そして北海沿岸
の東フリースラント地方を中心に、毎年
さまざまな地域で行われている習慣で
す。歴史はとても古く、およそ数千年前
に始まったとされています。

木の飾りと同様に、マイバウムをめぐる
習慣は地域によってさまざま。最も有
名な習慣は、マイバウムが立てられる4
月30日に開催されるMaitanz(5月の踊

り)というお祭りです。そのほか、町の
若者が隣町のマイバウムを盗むという人
気のいたずらや、若い男性が好きな女性
の家の前に、自分で作った小さなマイバ
ウムを立てるという習慣もあります。豊
作と子孫繁栄を願う習慣は、現在では、
若いカップルが愛を確かめ合うシンボル
へと発展しながら受け継がれています。



 今日の言葉 
Maibaum (5月の木)